

有馬キリシタン遺産記念館には原城跡から出土した青銅製の十字架や、日野江城跡から出土した金箔瓦などが展示されており、キリシタン史の光と影を学ぶことができる。



かつて壮麗な城郭があった日野江城跡。

1613年10月7日、棄教を拒否した有馬直純の3人の重臣とその家族が、2万人以上の信徒が見守る中、火刑となり殉教した「有馬川殉教地」。

有馬キリシタン遺産記念館

かつて壮麗な城郭があった日野江城跡。美しい広間からは海が望めたという。本丸跡に立てば、木々の間から海が見渡せ、当時の様子を彷彿とさせた。

1613年10月7日、棄教を拒否した有馬直純の3人の重臣とその家族が、2万人以上の信徒が見守る中、火刑となり殉教した「有馬川殉教地」。

記念館で歴史を学んだ後は、日野江城跡へ。キリシタン大名・有馬晴信によって築造された日野江城について、ポルトガル宣教師ルイス・フロイスは「その城郭を見たポルトガル人たちは、日本にこれほど壮麗な建造物があるなどと考えてもみなかった」と讃えている。

日野江城跡には古い石垣が残るだけだが、フロイスは「大小の部屋はすべて黄金の品や典雅で華麗な絵画で飾られていた」と伝えており、記念館に展示されていた貴重な輸入陶磁器の破片や金箔瓦などを思いあわせると、有馬氏の権力ときらびやかな暮らしが浮かび上がってくる。スペイン人の商人によれば、美しい広間からは海が望めたという。本丸跡に立てば、木々の間から海が見渡せ、当時の様子を彷彿とさせた。



ミニカードライブ

繁栄を誇ったキリスト教はその後、一六三七年に起きた島原・天草一揆によって、転機を迎える。南島原はかつてキリスト教が栄えた場所。口之津港にはポルトガル船三隻が入港し、南蛮貿易港となった。この地では、アルメイダ修道士により布教活動が始まり、たちまちキリスト教は島原全土へと広がった。有馬キリシタン遺産記念館では、その繁栄の象徴である「日野江城跡」やこの土地で花開いたキリシタン文化について紹介している。

南島原はかつてキリスト教が栄えた場所。口之津港にはポルトガル船三隻が入港し、南蛮貿易港となった。この地では、アルメイダ修道士により布教活動が始まり、たちまちキリスト教は島原全土へと広がった。有馬キリシタン遺産記念館では、その繁栄の象徴である「日野江城跡」やこの土地で花開いたキリシタン文化について紹介している。

絶景の



× 原城温泉